

在宅療養ガイドブック「わが家で生きる」に対するご意見と修正案

該当箇所	ご意見	修正案
全体	字を大きくしてイラストを増やしてほしい	全体の修正は不可。今回新たに作成するページに対して善処する。
P6.7	福祉用具など住まいの環境を整えるサービスを追加してほしい。	追加する。
P8	脳卒中の回復期の治療について、「麻痺がある場合にリハビリを行うこと」「老健など病院以外でもリハビリを行う場合があること」の誤解がないように表記してほしい。	「病状が安定してきたら麻痺等の状況に応じて、リハビリを行うための病院などへ転院します。」に修正する。
P12	末期がんより前の段階から載せていただきたい	在宅療養におけるがんについて考えた場合、終末期の看取りまでに焦点を当てて作成しているため、今回の改訂では修正せず。
P12	終末期の定義について、がんの根治治療は難しく積極的な治療も難しくなった段階や、がんに対する治療の適応が難しくなった段階なども追加してほしい。	「終末期とは、治療によって回復の見込みがない状態。がんの根治治療が難しくなった場合や、がんに対する治療の適応が難しくなった場合に、治療よりも症状の緩和が目的となる時期のことです。」に修正する。
ACP	その日までどう生きたいかというニュアンスを入れ、明るい雰囲気にしてほしい。	色味等を工夫し、全体的に明るい雰囲気に修正する。
ACP	健康な人と自身が病気の場合とでは、ACPについて考えることの意味合いが全く違う。なぜ今ACPについて考える必要があるのかというところから工夫が必要。	かかりつけ医からのメッセージで「今ACPについて考える必要」について記述する。
ACP	最期をどこで迎えたいかとかの調査結果を盛り込むのはどうか。	高齢者等基礎調査、死亡小票分析のデータを掲載する。
裏表紙	地域包括支援センター一覧の色の組み合わせが見えにくい	色の組み合わせを変更する。（候補：黄緑色、黄色）
裏表紙	地域包括支援センターの場所を示した地図があるといい。	紙面の都合上、掲載せず。すぐわかる介護保険にて掲載しているため。